

＜病院の移譲に関する覚書を締結しました＞

昨年12月4日に、高浜市と医療法人豊田会は「高浜市立病院の移譲に関する覚書」を締結いたしました。主な内容につきましては、以下のとおりであり、現在は協定書（契約書）の締結に向けた協議を行っています。

●病院の名称

刈谷豊田総合病院高浜分院とします。

●医療法人豊田会への参画

医療法人豊田会の理事会には、刈谷市と同様に、高浜市長が理事として参加します。このことにより、移譲後も、市民の皆さんからのご意見やご要望を、直接医療法人豊田会へ届けます。

●病院運営

高浜市と医療法人豊田会は、移譲後も協力して、10年以上病院の運営に努めます。

●資産の譲渡

病院の土地については、医療法人豊田会へ無償貸与します。建物、医療機器、備品については、医療法人豊田会へ無償譲渡します。

●改修工事

4月1日から病院の運営を行うため、医療法人豊田会は今年度中に、看板の取替えなどの改修工事を行います。

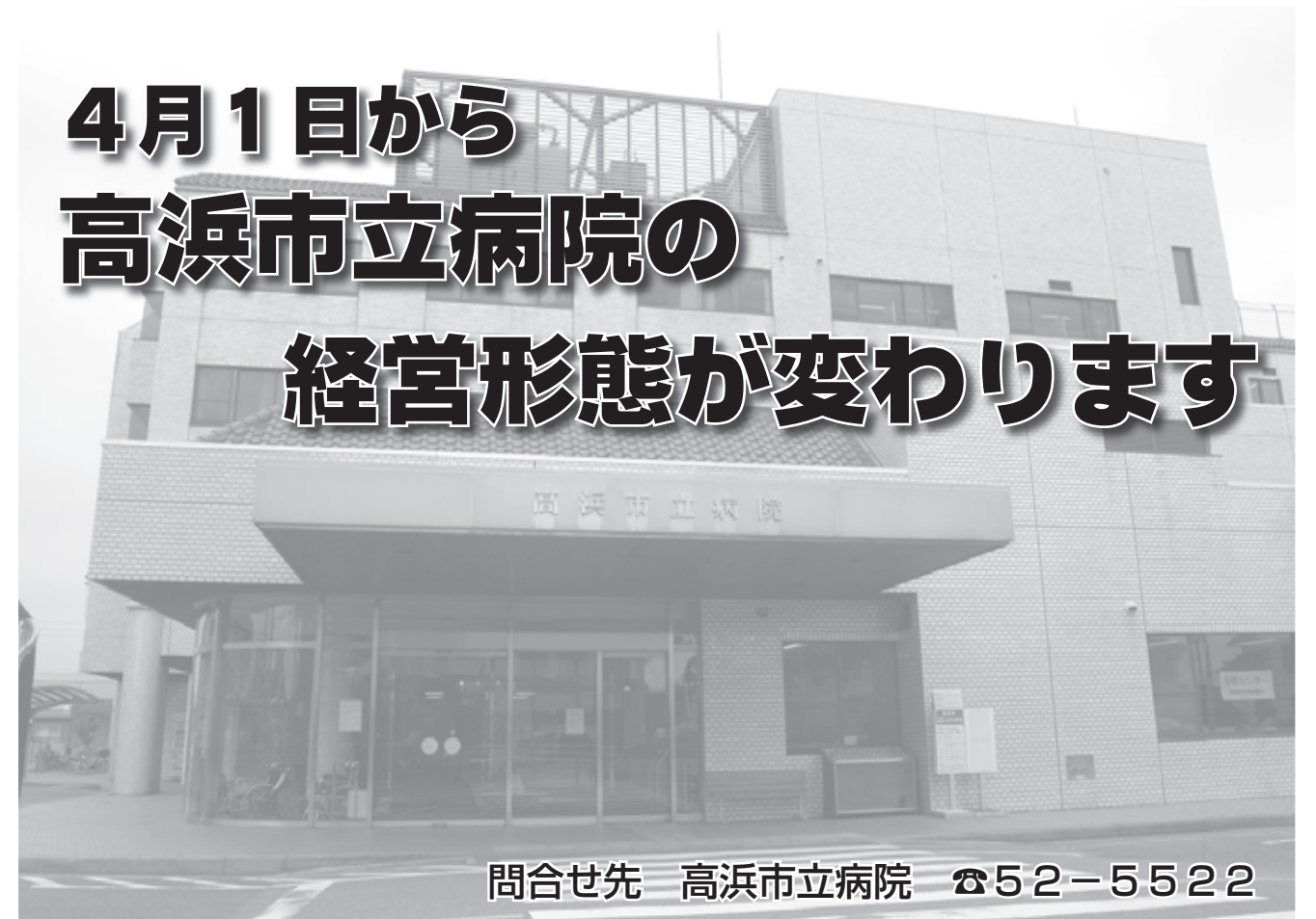
●高浜市の財政支援

移譲後も、高浜市は医療法人豊田会に対して、財政支援を行います。主な支援につきましては、以下のとおりです。

- ・移譲後3年間は、経常損失を限度とした病院運営費補助を行います。
- ・移譲後4年目以降、20億円を限度として、病院の施設改修経費を補助します。
- ・地域医療、救急医療、高度医療の確保および振興のため、毎年およそ7千万円を補助します。

●診療録等の引き渡し

高浜市立病院入院および入院外患者診療録ならびにそれに付随する関係書類は、医療法人豊田会へ引き渡します。



高浜市立病院は、「市民のための病院」を基本理念に掲げ、昭和60年2月に開院いたしました。その後は、高浜市の中心的医療機関として、市民の皆さんの初期医療から慢性期医療まで、幅広い医療ニーズに対応し、保健・福祉の充実に努めてまいりました。

しかし、国の新たな臨床研修制度による医師の偏在などの影響から、平成18年度より当院が深刻な医師不足に陥り、診療体制基盤が弱体化し、病院の存続を脅かすようになりました。高浜市といたしましては、この地域の医療を守ること、医療を継続することを第一に考え、病院の経営形態につきましては、指定管理者制度の導入や民営化など、幅広い選択肢を視野に入れて検討及び協議を重ねてまいりました。

その結果、高浜市立病院は来る4月1日から経営形態を変更し、医療法人豊田会が刈谷豊田総合病院高浜分院として運営することになりました。

＜4月1日からの診療体制について＞

4月1日からの診療体制につきましては、以下のとおりです。

●外来診療

内科、外科、整形外科および眼科の4診療科を標榜します。

●入院診療

すべて医療型の療養病床となりますが、肺炎などの経過観察入院につきましては、引き続き対応します。主に、慢性期医療および亜急性期医療を担います。また、重症の場合は、刈谷豊田総合病院で対応します。

●在宅医療

現在実施している「訪問看護」および「訪問リハビリテーション」は引き続き実施します。

●健診業務

総合検診や人間ドックをはじめとする健診業務の一層の充実を図ります。

ますの話題

ドームドッジ 2008 準優勝

おめでとうございます

昨年11月30日に名古屋ドームで行なわれたドッジボール大会でTSCファイヤーズが全国の強豪を相手に準優勝を果たしました。キャプテンの井上隼汰くんは「明るくて、強くて、楽しくて、元気なチームです。メンバー全員が特徴を活かして戦いました。」と話してくれました。

ドームドッジは日本最大級の大会で全国から約1万人が参加して行なわれるドッジボール大会で、TSCファイヤーズは小学校高学年ふれあいリーグに参加しました。

TSCファイヤーズメンバー紹介（敬称略）

井上隼汰【キャプテン】（吉浜小6年）、佐々木博一（吉浜小6年）、白木京介（吉浜小6年）大久保静穂（吉浜小6年）、山岡勇太（吉浜小5年）、島田大成（吉浜小5年）、白坂知弥（吉浜小5年）、渡辺麻里（吉浜小5年）、村瀬朱里（吉浜小5年）、加藤梨名（吉浜小5年）、安藤大真（翼小6年）、小林桃花（高取小6年）、山口諒（吉浜小5年）

